



「見たり、聞いたり、探ったり」No.221

通算 No.373

青木行雄

日本の原風景 — 棚田

「星峠」(棚田)新潟県十日町市 & 「^{しろよねせんまいだ}白米千枚田」石川県輪島市

日本の原風景ともいえる棚田を見学する機会をえた。日経新聞の何でもランキングと言う紙面にも取り上げられた、1位と2位がそれぞれである。山肌に沿う幾何学模様や海とのコントラストが四季折々に表情をかえ、見る人に異様とも神秘とも思える光景に圧倒される程だった。そして最近外国人観光客にも大人気といわれる。

まず第1位、「星峠」。4尺玉の花火で有名な片貝町から、車で約1時間30分程かかる新潟県十日町市にこの「星峠」はあった。車で幾町村が通りすぎた高所にあり、棚田が多いことで知られる新潟県でも最も広い所らしい。東京ドーム6個分以上の広さがあり、約200もの田んぼがすり鉢状に並び、圧倒的なスケールで観光客を楽しませてくれる。この広大な広さなのに家や道路などの人工物がほとんど見えないのも特徴という。「雲海が出現することが多い早朝は幻想的だ」と地元の人が言う。そういえば大分の由布院での早朝の高所から見る雲海、朝霧も見事であるが、日本全国には棚田も多くあるというが、農業国であり、山が多い日本には狭い田畑があるのも当然と言える。ここ「星峠」が、NHK大河ドラマ「天地人」のタイトルバックにもなったといい、さすがに棚田1位だけあるなと思う。また全景が見下ろせる南側の展望台からの眺めは撮影ポイントで、観光客の人々がシャッターを切っていた。四季折々にも絶景と思うが稲刈り後にも田に水を張るため、空を映し出す「水鏡」が寒い時期でも見ごたえがあるという。若葉、深緑、紅葉、銀白と四季ごとに景色が変わり、「棚田の向こうに連なる山々も美しく見飽きない景色」だと地元の人絶賛する。何度訪れても違う写真が撮れるのでリピーターも多いらしい。日本の原風景がこんな所にも見られると感動した。

現地星峠の見える所に峠集落よりこんな立看板が建っていたので記してみたい。

星峠の棚田 管理募金のお願い

ようこそ星峠へ。マナーを守っていただき感謝します。

この棚田は峠集落の先祖たちの手で300年以上



※展望台の近くに立っていた看板。注意等が書かれている

前の機械のない時代に開墾されたものです。昨今、市の観光PRによって多くの観光客が来て下さるようになりましたが、峠集落の生活者は一部の心無い人たちによって田畑を荒らされ、ごみや騒音にも困っています。棚田を維持する集落の平穏な農作業、生活の為に、皆様のご協力が欠かせません。2006年(平成18年)に設置されたトイレ箇所での募金箱には年々皆様からのご寄付が増え、棚田の管理に役立させて頂いております。ありがとうございます。

今後とも皆様に棚田観光を楽しんで頂く為にも、棚田を管理するための募金をお願いしています。多少なりともご寄付を賜れば幸いです。

峠 集落

こんな文面の看板がありました。

入場料も取るわけではないし、こんなすばらしい風景を、先祖のおかげと感謝し見学して来たが、頭が下がる思いであった。

ほくほく線「まつだい駅」からタクシーで約20分

新潟県十日町市観光協会まつだい事務所

025-597-3000



※この立看板も展望台の近くに立っていた。「星峠」は新潟県十日町市松代にある



※秋の稲刈の前。黄金の風景はすばらしい



※水田の輝き。水が真白に輝いている積雪のようだ



※稲刈前の遠景。見る美しさとは別に、農民の苦勞が目につかぶ



※稲刈前の近景。写真では表現出来ない美しさがある

次に第2位の「^{しろよねせんまいだ}白米千枚田」。石川県輪島と言え、日本三代朝市でも有名だが、この棚田もすごい。日本各地にある棚田も見たことがあるがこれ程小さくて枚数の多いものも珍しい。

国の名勝に指定され、世界農業遺産「能登の里山里海」を代表する棚田である。「足元から海岸まで、1,004枚の狭小な水田が見渡す限り連なっている姿は壮観の一言」。この目で見ないとこの驚きを表現することが出来ない。

海と棚田と一緒に撮影できるのは、国土が狭い日本独特の景観だと思う。あぜ道が遊歩道になっているので田んぼの中を歩ける。今回行った時は稲を刈った後なので、黄金の稲穂は見られなかったが想像するだけで心がワクワクする。毎年お盆の時期は、外国人を含む観光客で大変賑わうらしい。隣接する「道の駅」では、棚田米で作ったおにぎりが評判で買われる人が多いといていた。

日本海の荒波や波しぶきがすぐ真下におしよせ、田んぼにかかるほど迫る。そのコントラストが見事である。日本海の水平線と白い波しぶきと千枚田、なんと不思議な景観であった。北国の厳しい風土に対峙した人々が耕して、田植から、手入れ、稲刈りなどの一連を思いだしながら見入ったが当事者は大変な苦勞ではと想像する。

10月から翌年の3月まで、太陽光を使った21,000個の発光ダイオード(LED)によるライトアップを開催しているという。



※世界農業遺産「千枚田」道の駅



※この風景、全部人手による作業である



※11月稲刈の後の冬前の風景



※日本海に面した海岸まで続く棚田

この北陸能登の、日本海の波しぶきが迫る一場所に、田植えの春、新緑の夏、収穫の秋、イルミネーションの冬と四季を通じて楽しめる場所は我々日本人の「米」を主食するものにとっては、大事な場所といえる。

こちらでは人手不足や労力などで維持するのに大変な苦勞が目に見えるようだ。

この棚田に興味のある方は、是非現地に行き見ることをお勧めしたい。特に秋の黄金の稲穂は私達のエネルギーの元、昔の諺に水を飲んで井戸を掘った人の苦勞を考える等の話を教えられたものだが、まさしく米の収穫の苦勞が良くわかる、田園風景であった。

のと鉄道穴水駅からバスで約50分

輪島市観光課

0768-23-1146



世界農業遺産「能登の里山里海」

出典：http://senmaida.wajimakankou.jp/user/filer_public_thumbnails/filer_public/7c/68/7c685346-0ad6-4689-ac66-fa070fa5e8ea/img06.jpg_250x179_q85_subsampling-2_upscale.jpg